

## 地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2022. 3. 25 第 30 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

### 目次

1 『農林業問題研究』第 58 巻第 1 号（第 225 号）の発刊案内	1
1-1 目次	
1-2 編集後記	2
2 学会活動状況報告	2
3 支部大会の開催報告	4
3-1 四国支部	
3-2 近畿支部	
4 国際ワークショップ報告要旨の募集のお知らせ	6

### 1. 『農林業問題研究』第 58 巻第 1 号（第 225 号）の発刊案内

#### 1-1 目次

##### <会長挨拶>

メゾエコノミクス：再考

浅見 淳之

##### <座長解題>

農林業問題研究への多様な接近 —地域資源の発掘と持続的利用—

足立 芳宏

##### <大会講演>

「ふるさとの味」をめぐる調理リテラシーの普及過程と生活世界

—長野県上伊那郡における地域資源の発掘と利用—

湯澤 規子

日本民俗学における農村研究の方法とその可能性

—インドネシア農村での地域資源調査の事例から—

山下 裕作

##### <国際ミニシンポジウム解題>

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and  
Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities Based on  
Interdisciplinary Approaches

Keshav Lall Maharjan, Kae Sekine, Tadayoshi Masuda

Agroecology and Systems Analysis for Sustainable Agriculture

Santiago Lopez-Ridaura

Territorial Scaling of Agroecology: at the Intersection of Agri-food Sustainability Transitions and Rural Revitalization

Zollet Simona

Power Dynamics and Discourses behind Climate Smart Agriculture: Global Context and Contest

Shuji Hisano

<特別セッション>

コロナ禍における農業生産・販売 ―地域からの実態報告―

松村 一善

<書評>

中島紀一編『「自然と共にある農業」への道を探る 有機農業・自然農法・小農制』  
大原興太郎

## 1-2 編集後記

225号は、第71回大会における、大会シンポジウム、国際ミニシンポジウム、特別セッションの内容を報告する号となりました。今年度大会も残念ながらオンライン開催となりましたが、当日の熱心な報告、議論がよみがえる充実した誌面となっているのではないかと思います。紙面充実の反面、学会・大会としては、文章としては表せない・残らない、対話や交流はどうしても少なくなっています。目には見えませんが、この機会の減少は、のちのち（既に？）、大きな問題になっていく

のではないかと危惧しています。

なお、現在、今年度大会の個別報告論文の査読を進めているところですが、投稿総数は19本と、昨年度の24本より微減しています。この傾向は近年続いているもので、単純な回帰直線を引いてみると……。抜本的な改革が必要とされているのかもしれませんが、何かと暗い話が重なる昨今ですが、アフターコロナを見据えながら、前向きな議論を進めたいと思うところです。(M.N)

## 2 学会活動状況報告

第71回地域農林経済学会大会は、オンライン(Zoom)にて、2021年10月30日(土)～10月31日(日)の2日間にわたり開催された。

※大会の詳細については、学会ホームページに掲載。

ージに掲載。

<大会シンポジウム>

第1日目 10月30日(土) 13:00～17:15

「農林業問題研究への多様な接近―地域資源の発掘と持続的利用―」

1. 会長講演：浅見淳之（京都大学農学研究科）
2. 座長解題：足立芳宏（京都大学農学研究科）
3. 話題提供1：湯澤規子（法政大学）  
「地理学の視点からの接近：「ふるさとの味」をめぐる調理リテラシーの普及過程と生活世界—長野県上伊那郡における地域資源の発掘と利用—」
4. 話題提供2：山下裕作（熊本大学文学部）「民俗学の視点からの接近：日本民俗学における農村研究の方法とその可能性—ウォノギリ多目的ダム上流域におけるアプライドな民俗調査—」
5. 話題提供3：横張真（東京大学工学研究科）「緑地計画論の視点からの接近：リダンダントな資源利用にもとづく新たなまちづくりと農業・農地」
6. コメンテーター：鶴田格（近畿大学農学部）、大江靖雄（東京農業大学国際食料情報学部）
7. 総合討論

#### <個別報告>

- 第1日目 10月30日（土）9:00～11:30  
 第2日目 10月31日（日）9:30～10:30、  
 13:30～15:00（個別報告優秀賞対象報告を含む） 詳細省略

#### <国際ミニシンポジウム>

- 第2日目 10月31日（日）10:30～12:30  
 （主催：地域農林経済学会 後援：日本有機農業学会）

Transformation towards Sustainable Agriculture, Rural Communities, and Ecosystems: Reviewing Global Trends and Local Realities based on Interdisciplinary Approaches

Chair: Keshav Lall Maharjan

(Hiroshima University)

Moderator: Tadayoshi Masuda (Kindai University)

Presentation 1: Santiago Lopez Ridaura (CIMMYT)

“Agroecology and systems analysis for sustainable agriculture”

Presentation 2: Simona Zollet (Hiroshima University)

“Small-scale organic farming and the ‘return to rural’: Global perspectives and case studies on the revitalization of marginal rural territories”

Presentation 3: Shuji Hisano (Kyoto University)

“Power dynamics and discourses behind climate smart agriculture: Global context and contest”

Discussant: Kae Sekine (Aichi Gakuin University)

Discussion

#### <特別セッション>

- 第2日目 10月31日（日）15:00～17:30  
 「コロナ禍における農業生産・販売：地域からの実態報告」

1. 座長解題：松村一善（鳥取大学農学部）
2. 第1報告：吉田晋一（NARO 開発戦略センター）「新型コロナウイルス感染症による農業および周辺産業への影響—統計などによる概観—」
3. 第2報告：山本善久（島根県農業技術センター）「島根県の事例：半農半X実践者の移住・就業・就農実態とアフターコロナに向けた課題と展開方向」
4. 第3報告：河野晃範（西宇和農業協同組合）「愛媛県の事例：新型コロナがもたらした農村地域への影響と農業労働力の

産地間連携と取組について」

5. 第4報告：田中里志（有限会社田中農場）「鳥取県の事例：ビジネスチャンス到来！？在庫活用で新規顧客の獲得へ」

6. 第5報告：大平貴之（農業生産法人有限会社エーアンドエス）「岡山県の事例：加工業務用に生食用・小売用等を加えて販路と事業を拡大 一大規模露地野菜作の事例一」

7. 第6報告：古川充（古川充行政書士事務所）「広島県の事例：コロナ関連施策を活用したスマート農業化等による中山間農業創生の可能性—行政書士の経験から—」

8. 質疑応答

<総会>

2021年10月30日(土)18:00~19:30に、大石和男氏(文化庁)を議長として、総会が開かれた。以下に、審議内容の資料の一部を掲載する。

付1. 地域農林経済学会 2020年度会計報告(当期剰余金)

科 目	2020年度 予算額 (1)	2020年度 決算額 (2)	差引額 (2)-(1)
当期収入	4,461,500	3,954,147	▲ 507,353
当期支出	4,674,670	3,367,962	▲ 1,306,708
当期差引	▲ 213,170	586,185	799,355

付2. 支部会・研究会について

<2020年度活動報告>

2020年度国際ワークショップ(兼 近畿支

### 3 支部大会の開催報告

#### 3-1 四国支部

2021年度地域農林経済学会四国支部大会は、2022年1月22日に香川大学農学部で開催された。本大会のテーマは、「香川県におけるスマート農業技術の開発と普

部 2020 年度大会)

開催日：2020年7月4日(土)

場 所：オンライン開催

内 容：英語による報告5本

中国支部 2020 年度大会

開催日：2020年12月6日(日)

場 所：オンライン開催

テーマ：「鳥取県における6次産業化の支援と展開」

四国支部 2020 年度大会

開催日：2020年12月5日(土)

場 所：愛媛大学農学部大会議室(愛媛県)  
(対面・オンライン併用)

テーマ：「愛媛県におけるスマート農業の展開と課題」

<2021年度事業中間報告>

2021年度国際ワークショップ

開催日：2021年7月11日(日)

場 所：オンライン開催

内 容：英語による報告9本

中国支部 2021 年度大会

開催日：2021年10月27日(水)

場 所：平田観光農園(広島県三次市上田町1740-3)川西郷の駅 いつわの里(広島県三次市三若町2396)

テーマ：「農山村地域における6次産業化と地域生活交流拠点の形成・維持について」

及に関する展望」である。大会参加者は約20名で、本学会員の他、農業者、普及指導者などを含んだ。本大会では以下の四つの報告があった。

第一に、筆者が「スマート農業技術の開

発・普及に関する検討課題—デザイン論、経営組織論の観点から—という題目で報告を行った。本報告では、D. A. ノーマン(1990)に代表されるデザイン論の学説(行為の7段階モデル、概念モデル、インタラクション設計の基本原則等)が、スマート農業技術の開発・導入時における開発者と採用者の関係のあり方を考える上で有用と考えられること、また、イノベーションの成功要因やナレッジマネジメントのあり方を取り扱った経営組織論の学説が、スマート農業技術の今後の普及体制を検討する際のヒントになることが論じられた。そして、こうした学説を援用しながら今後のスマート農業技術の開発・普及のあり方に関して学術的検討を進める必要性が指摘された。

第二に、伊藤博紀氏(香川県農業経営課農業革新支援グループ)が、「香川県におけるスマート農業の取り組みについて」という題目で報告を行った。本報告では、香川県によるスマート農業普及戦略の概要と、これまでの香川県によるスマート農業の開発・普及促進の事例が解説された。後者の事例の一つとして、本報告では、香川県の改良普及指導員がイチゴ施設栽培者から施設内の環境データを収集し、その分析によってイチゴ栽培技能の高位平準化を図りつつあることが説明された。この他、生産者側にスマート農業への不安や抵抗が多くありがちな現状を踏まえて、普及指導員が生産者の生産管理状況をよく読み取り、生産者のニーズに即した技術を選んでその導入を奨励していく必要性が指摘された。

第三に、政府によるスマート農業の開発・実証プロジェクトに協力参加した尾野弘季氏(株式会社尾野農園)が、「都市近郊小面積多筆数水田での加工業務用葉

ネギ栽培のスマート実証農場」という題目で報告を行った。本報告では、尾野氏の葉ネギ経営において自動直進操舵補助システムの導入によって圃場準備作業の労働負担が軽減されたことが説明された。他方で、栽培環境、葉ネギ生育状況のセンシングによって葉ネギの生育予測や出荷管理を改善しようとしたが、データ分析能力の不足もあって成果が得られなかったこと、また、新しく開発された葉ネギ収穫機を用いて収穫作業の省力化を狙ったが、収穫後の箱詰め作業の労働負担が増えたため十分な省力化が実現できなかったことが説明された。

第四に、村上幸一氏(香川高等専門学校)が、「香川県におけるスマート農業技術の開発事例について」という題目で報告を行った。本報告では、村上氏が主導した香川県内のスマート農業技術の開発事例として、①県独自の栽培管理システム(iFarm, さぬきファーマーズステーション)の開発、②深層学習を用いたレタス、キャベツの収穫予測アルゴリズム・システムの開発、③画像解析技術の応用によってイチゴの(非)成熟果数を計測するシステムの開発、が紹介された。そして、各事例においてシステム開発の依頼や構想から始まってシステム完成に至るまでのプロセス(農業関係者との折衝、入出力データの収集、深層学習における分析モデルの選定・チューニング等を含む)が具体的に説明された。

本大会では、これらの報告を通じて香川県におけるスマート農業技術の開発・普及の動向や広がりについて理解を深めることが可能になった。また、本大会ではスマート農業技術の開発・普及に向けて残された課題が多く挙げられ、関係者間でその克服に向けて意見交換や協力を

進める必要性が認識された。

(香川大学 武藤幸雄)

### 3-2 近畿支部

2022年1月28日(金)、地域農林経済学会近畿支部2021年度大会「新時代の地域共創と都市農業の役割」が摂南大学農学部(大阪府枚方市)で開催された。浅見淳之学会長に開会のご挨拶をいただいた後、摂南大学農学部食農ビジネス学科の中塚華奈が「ウィズコロナとニューノーマル～都市農業の役割～」と題して、新型コロナウイルスの感染拡大防止を契機としたニューノーマルとよばれる新たなライフスタイルの確立と都市農業を軸とした生産・流通・消費のありかたについて座長解題を行った。枚方市長の伏見隆氏からは「持続的な発展と一人ひとりが輝けるまちへ」と題し、枚方市の歴史や概要、2025年の大阪万博を視野にいたした様々なまちづくりに関する取り組みについてご紹介いただいた。摂南大学工学部都市環境工学科の熊谷樹一郎氏からは、「枚方市のこれからのまちづ

くり～オーガニックな暮らしを目指して～」と題し、枚方HUB協議会の取り組みとともに、オーガニックなまちづくりとは何かについて、摂南大学農学部食農ビジネス学科の谷口葉子氏からは「都市部における体験農園での学びや気づき」と題し、自らの体験農園における経験から得られた見解について、農園杉・五兵衛の野島五兵衛氏からは「こち良いオーガニック社会を創る都市部における里山農業」と題し、農園杉・五兵衛の哲学に基づいた実践内容の紹介と里山の存在によって持続可能な循環型社会が成り立つという一つの答えを提示するなど、産・学・官それぞれの立場から、環境や生命を大切にするグリーン経済に移行し、こち良いオーガニック社会を実現するために、どのような考えが必要なのか、何ができるのかなどについてお話いただいた。最後に摂南大学農学部食農ビジネス学科の小野雅之学科長がそれぞれの講演内容を受けて閉会挨拶を行った。(摂南大学農学部 中塚華奈)

## 4 国際ワークショップ報告要旨の募集のお知らせ

### The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics The 6<sup>th</sup> International Workshop

#### Call for Applications

**Date: Sunday June 26, 2022**

**Venue: Online (Zoom)**

**Language: English**

**Participation fee: Free**

**Deadline for application: Friday May 13, 2021**

We are pleased to invite the members of the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics (ARAFE) to present your latest studies at the 6<sup>th</sup> International Workshop to be held on Sunday June 26, 2022 online (via Zoom). The objective of this workshop is to encourage our members, from graduate students to established

researchers, to write, present and discuss on their work in English, which will be an essential step towards other international conferences and internationalization of our association. If there are some non-members of the Association who are interested in presenting their papers nearby you, please encourage them to do so with your recommendation.

The papers for this workshop are expected to be studies of regional agricultural and forestry economics, management, sociology, history, and other related social sciences. Wide disciplines and approaches, econometrics and non-econometrics, quantitative and qualitative approaches, theoretical and experimental analyses with case studies, field surveys, are all welcome.

Given the current sanitary situation with the Covid-19, we intend to organize the workshop online only. Those who wish to present their work are expected to fill in the necessary items to the Google Form as linked below by Friday May 13, 2022:

<https://forms.gle/UotWT4v981BgWZFPA>

- 氏名 Family Name, Given Name
- 所属 Affiliation
- Title 報告タイトル
- Contact Tel 連絡先電話番号
- Contact Email 連絡先 E-mail
- ARAFE Member 会員 / Non-member 非会員
- If you are non-member, write the member's name who recommend you 非会員の場合には推薦者氏名
- Abstract 要旨 (300-500 words 単語)

The selected presenters must submit their handouts, e.g., PowerPoint Slides by Thursday June 16, 2022, that will be circulated among participants on the day of the workshop to have better discussions. The presentation will be of 30 minutes and discussion of 10 minutes will follow. Presenters should prepare digital presentation materials (e.g. Power Point slides) for the online presentation. The presented papers are welcomed to be submitted to the Journal of Rural Problems for review or revised for a presentation in the annual conference of the Association. The first author and the responsible author must be a member of the Association to submit a paper for review of the Journal or present in the annual conference. The author(s) whose paper(s) presented in the ARAFE International Workshop are being published or accepted for publication in international journals with impact factor indexed in Web of Science or Journal of Rural Problems published by the ARAFE shall be awarded a subsidy of the

ARAFE. Please contact Prof. MAHARJAN for more details.

If you have any questions, please contact us.

We are looking forward to your contributions!

Executive Board Members for

Internationalization of the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

Prof. MAHARJAN Keshav Lall (Hiroshima University)

Asso. Prof. MASUDA Tadayoshi (Kinki University)

Asso. Prof. SEKINE Kae (Aichi Gakuin University)

Contact: mkeshav@hiroshima-u.ac.jp

## 地域農林経済学会 第6回国際ワークショップ

### 報告要旨の募集のお知らせ

開催日：2022年6月26日(日)

会場：オンライン(Zoom) 使用言語：英語

報告要旨の締め切り：2022年5月13日(金)

参加費：無料

平素より本学会の活動にご協力頂き、ありがとうございます。

この度、地域農林経済学会は第6回国際ワークショップを下記の要領で2022年6月26日(日)にオンライン(Zoom)開催することになりました。本ワークショップは、大学院生から経験豊かな研究者までの会員に研究成果を英語で執筆、報告、議論する場を提供し、国際学会における報告に向けたステップアップや本学会の国際化に資する目的で実施しています。ぜひこの機会に、会員の皆様の研究成果を発表ください。また、もし皆様の近くに本学会の非会員で報告を希望される方がいましたら、非会員でも報告できますので、ぜひご推薦ください。

本ワークショップでは、地域農林経済学、経営学、社会学、歴史学、および関連する社会科学の研究報告を募集しています。また、計量・非計量手法、量的・質的アプローチ、理論的分析、ケーススタディやフィールド調査にもとづく実証的分析などの幅広い研究報告を対象としています。

昨今の新型コロナウイルス禍により、今年度のワークショップはオンライン開催のみとなり、対面の開催はありません。報告を希望される方は、2022年5月13日(金)までに以下のリンクから Google Form に必要事項を入力下さい：

<https://forms.gle/UotWT4v981BgWZFPA>



- 氏名 Family Name, Given Name
- 所属 Affiliation
- Title 報告タイトル
- Contact Tel 連絡先電話番号
- Contact Email 連絡先 E-mail
- ARAFE Member 会員 / Non-member 非会員
- If you are non-member, write the member's name who recommend you 非会員の場合には推薦者氏名
- Abstract 要旨 (300-500 words 単語)

採用された報告者には、2022年6月16日(木)までにパワーポイント等の報告資料を送って頂きます。本ワークショップの議論を充実したものとするために、参加者には当日、報告資料を読めるように共有します。本ワークショップの1報告当たりの報告時間は30分、議論の時間は10分です。報告内容を元に本学会誌に投稿、または改訂の上で本学会の大会個別報告で報告頂ければ幸いです。学会誌への投稿または大会個別報告での報告の際には、筆頭著者および責任著者が本学会の会員である必要があります。地域農林経済学会の国際ワークショップで発表した内容を基にした研究論文を、Web of Science のインパクトファクター付き英文学術誌、または本学会誌『農林業問題研究』に英語論文として投稿し、掲載決定した場合、執筆者に対して地域農林経済学会から補助金を支給します。詳しくはマハラジャンまでお問い合わせください。

本ワークショップに関するご質問等がございましたら、Eメールにてお問い合わせください。以上、よろしく申し上げます。

地域農林経済学会 国際化担当常務理事  
マハラジャン・ケシャブ・ラル教授(広島大学)  
増田忠義准教授(近畿大学)  
関根佳恵准教授(愛知学院大学)  
問い合わせ先 : mkeshav@hiroshima-u.ac.jp

#### ★編集後記

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆様からのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（堀田 学 horita@fpu.ac.jp または辻村英之 tsujimura.hideyuki.8m@kyoto-u.ac.jp）まで、積極的にお知らせ下さい。（M.H.）

### 学会配信メールの受信設定のお願い

最近、地域農林経済学会の配信メール（地域農林経済学会事務局 arfe@nacos.com からの一斉配信メール）が迷惑メールボックスに入ってしまう現象が多くみられます。配信側で可能な対策は講じておりますが、会員の皆様におかれまして受信状況をチェックいただき、受信側での対策として受信設定をお願いいたします。

今後も学会の大会情報などをメール配信いたしますので、お手数をおかけしますが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

#### 【1】地域農林経済学会の配信メールが受信できているかどうかご確認をお願いします。

直近では、6月に、第5回国際ワークショップについてのメールを配信しております。送信元は、地域農林経済学会事務局<arfe@nacos.com>です。受信トレイに問題なく届いている場合には、以下の【2】の受信設定をしていただく必要はありません。

受信トレイに届いていない場合には、迷惑メールボックスに入っていないかどうか、ご確認をお願いします。そのうえで、【2】の設定をお願いします。

#### 【2】地域農林経済学会のドメインの受信設定をお願いします。

配信メールが通常の実受信トレイに届かない場合には、受信側の設定として、配信元メールアドレス「arfe@nacos.com」のドメインである「@nacos.com」の受信設定をお願いします。

#### <受信設定の方法について>

今回とくに問題が生じているのがGmailで受信するケースですので、例として、Gmailの受信設定の方法をご案内します。

「Gmailでメールアドレスの受信設定をする方法」

<https://office-hack.com/gmail/receive-settings/>

#### 【配信メールが迷惑メールボックスにも届いていない場合】

メールアドレスが登録されていない、または、登録メールアドレスの更新がされていない可能性があります。地域農林経済学会オンライン会員情報管理システム e-naf (<https://www.e-naf.jp/ARFE/member/login.php>) にログインのうえ、会員情報の確認・更新をお願いします。パスワードおよび登録メールアドレス不明のためにログインができない場合には、学会事務局（arfe@nacos.com）までご連絡ください。

---

地域農林経済学会ニューズレター 第30号

発行日：2022年3月25日

ARAFE Newsletter No.30

Mar.25 2022

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）

---